

8 - 4 地区内街路調査

本節では，地区内の街路の幅員や新設道路の状況を調査した結果を示す．調査の結果，沿道施設は再建や新築されているものの，街路網については変化が無かった．

図8 - 18に，震災以前の道路幅員の状況を示す．図8 - 19は，1998年8月の各街路の幅員を示したものである．図8 - 20に，郡家地区の街路整備計画路線を示す．それぞれの幅員ランク別の構成比を図8 - 21に示す．以下に，それぞれの地区の街路網の特徴について整理する．

震災以前の街路網は，幅員4m未満の狭隘街路の構成比が郡家で約65%，江井で約75%存在していたことがわかる．特に江井では2.7m未満の街路だけで約60%も存在していた．こうした街路環境は，交通アクセス，防災性など地方の都市部密集市街地と同程度か，江井についてはそれ以上に脆弱な状況である³⁾．しかし，図8 - 3からわかるように市街地率は約50%とそれほど高くはなく，この点が密集市街地と異なる点である³⁾．

現状の街路網は，江井では江井港線が拡幅された程度で幅員ランク構成比もほとんど変化は見られない．一方，郡家では図8 - 18に示すような整備事業が現在進められており，整備計画路線が一部で完成していることがわかる．また，地区内のコミュニティ住宅周辺の一部の街路が拡幅されていることがわかる．住宅の接道条件確保のために整備されたものと思われる．ただ，コミュニティ住宅関連の拡幅整備によってもその周辺建物の接道条件は向上し，また街路空間が大きく広がることで路地が明るくなり，雰囲気や景観性の向上もたらしているようである（定点写真観測地点 周辺写真より）．

幅員構成比からは，幅員4m未満の街路のうち特に1.8～2.7mクラスの街路が4m以上に拡幅されていることがわかる（ただし，狭隘街路において現時点の構成比に比べ整備後の構成比に若干増加が見られるのは，集計に用いた街路データが1994年に修正したのになっているためである）．しかし，その他の路線はほとんど変化が見られない．

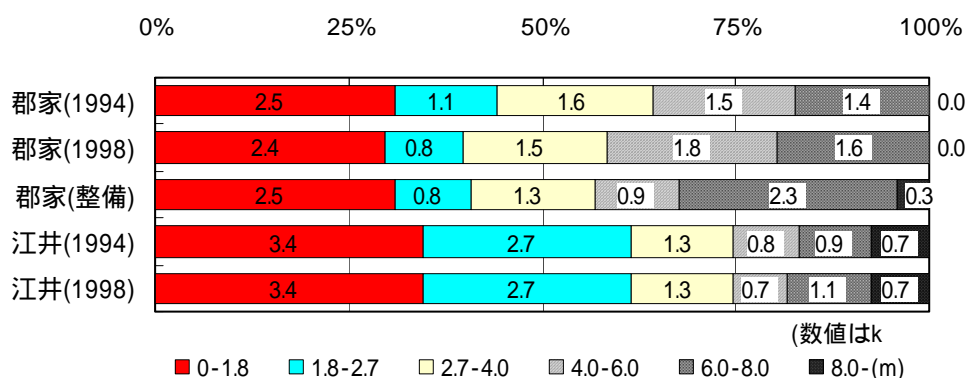


図8 - 21 幅員ランク別街路延長構成比

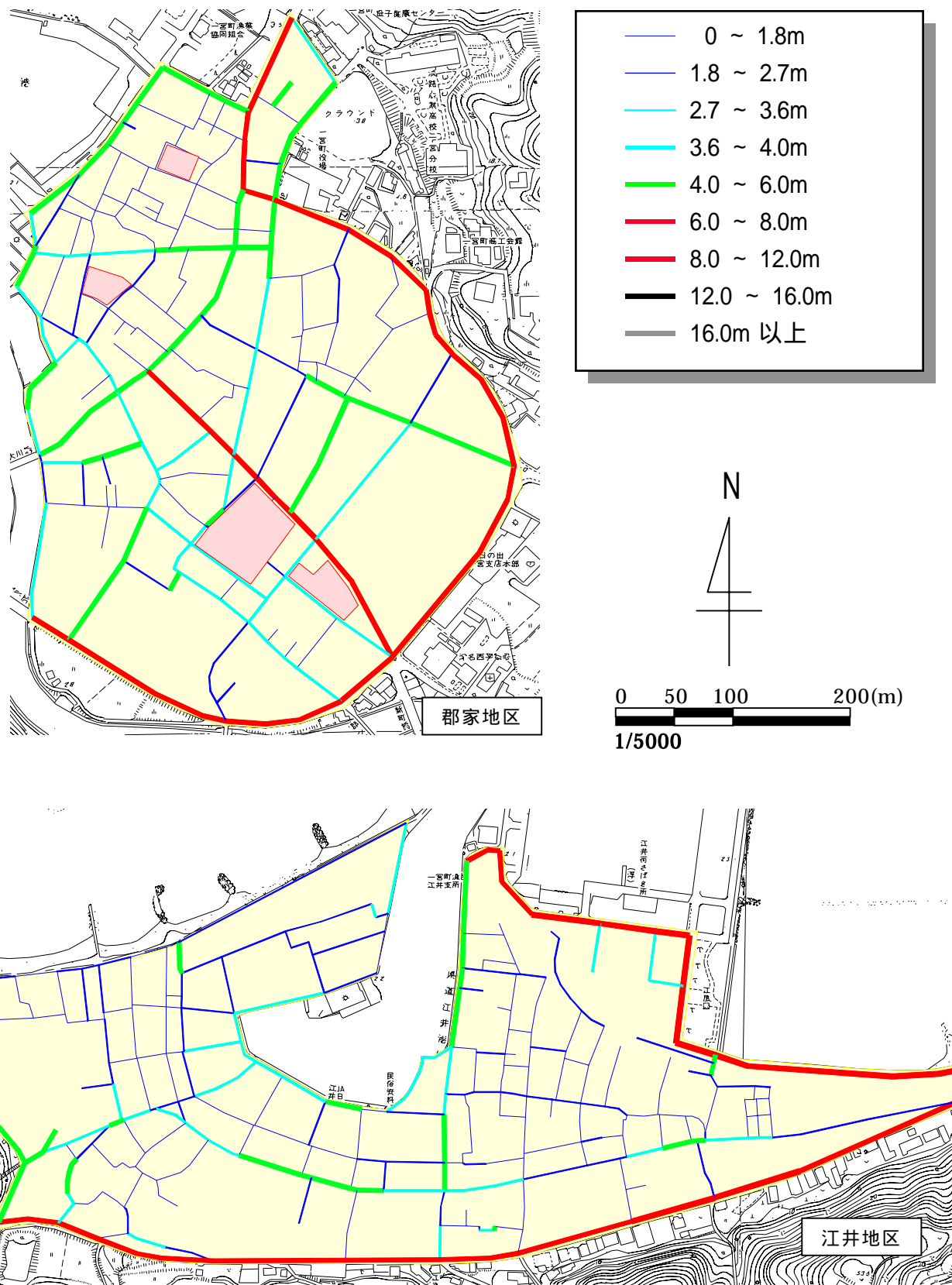


図 8 - 1 8 震災以前の道路状況（1994年）

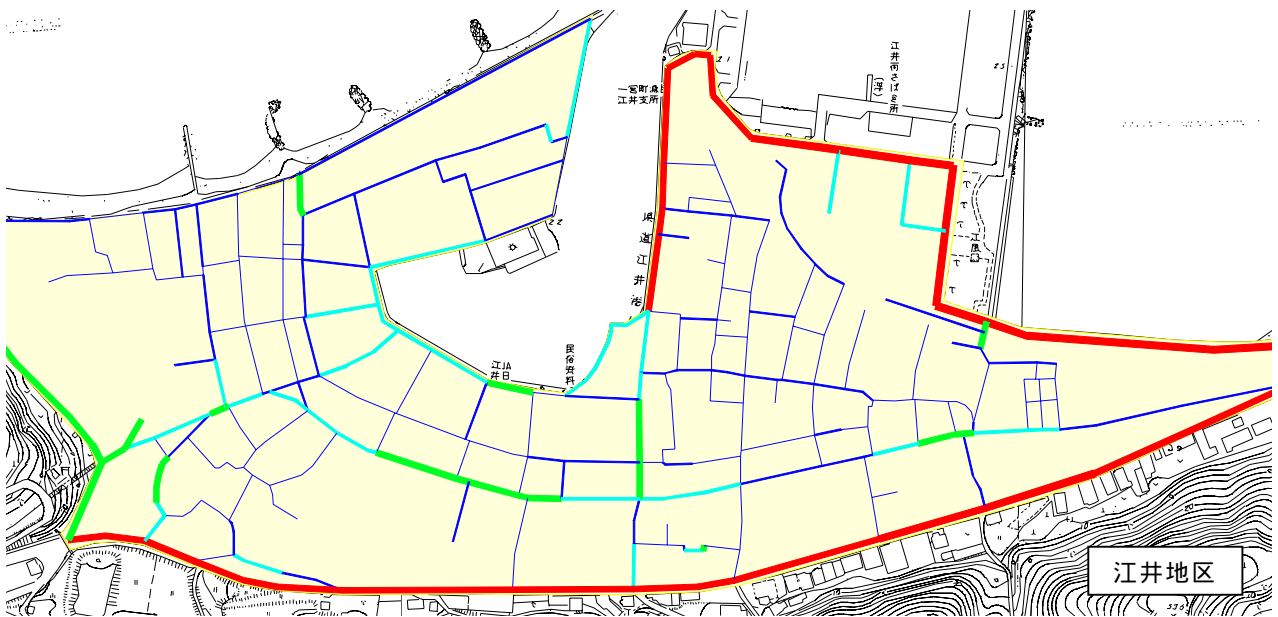
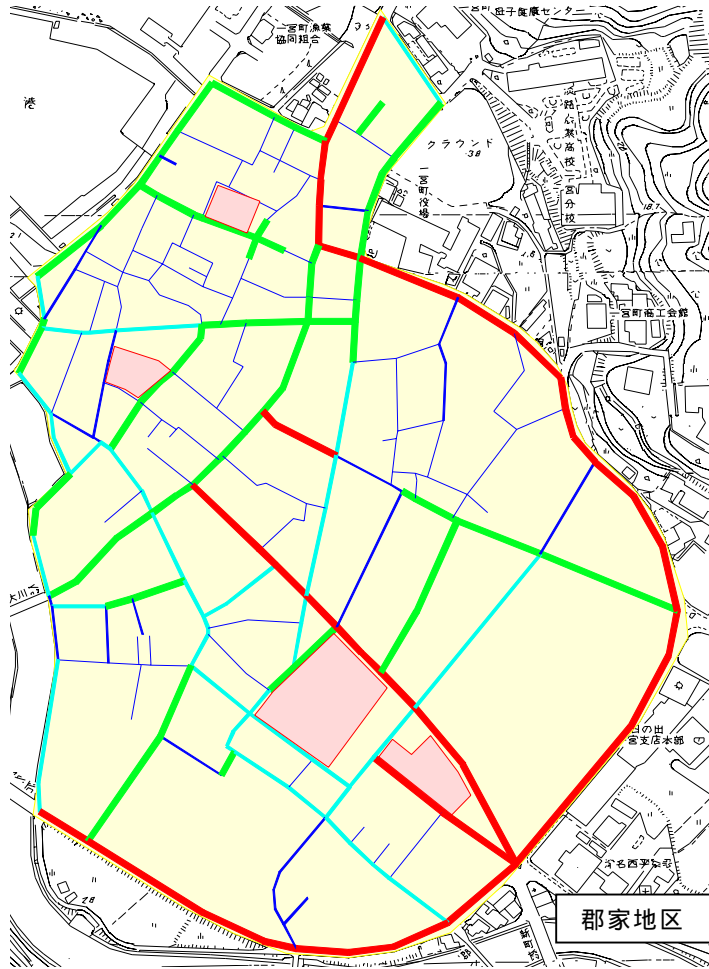


図8-19 震災後1998年時点の道路状況

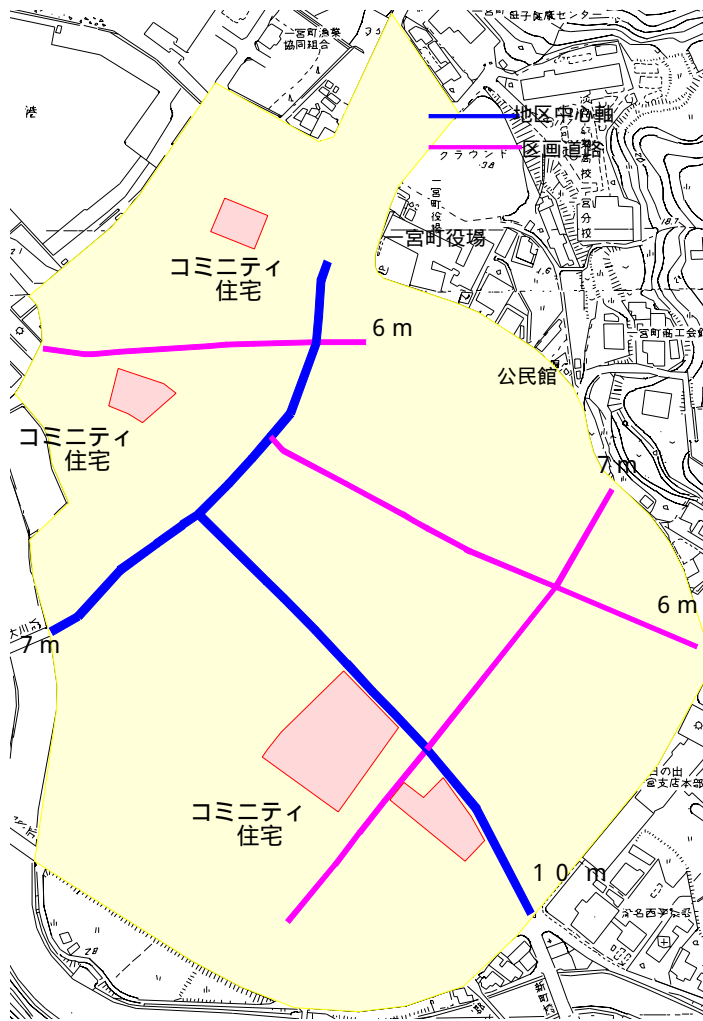


図 8 - 2 0 郡家地区の街路網整備計画